早川： おはようございます。今朝のエコロジートークは、今月 4 月 22 日、23 日と愛知県名古屋市で開催される Earth day 2000 年地球の日フェスティバルに関する取材です。環境に優しい建物を普及させようと 1998 年 3 月に設立された日本グリーンビルディング協会。大手メーカーやゼネコン、ホテルなど 100 社以上が参加しています。この創業者で、ペス建築環境設計社長の石黒隆敏さん、Earth day 開催にむけて今忙しく準備をしています。2000 年地球の日と今日までの経過や意義、そして Earth day の歴史も含めて伺って参りましょう。
石黒さんにお話を聞きます。

早川： 「Earth day」という名前は、ネーミングは聞いたことはあるんですけども、こんなに 30 年もたつほど長い歴史を持っているとは知りませんでした。いつから始まったものなんですか。

石黒： これはですね、1970 年一番大きなイベントはニューヨークで始まったわけですが、アメリカを中心に世界で行われた行事でして、30 年というのは、時代的には 30 年たっていますが、実はイベントは 10 年ごとあるいは 5 年ごとに大きなイベントが行われているということで、実際は 30 年毎年それが行われている訳ではない。現実には 1970 年の第 1 回から 10 年から 15 年は何も活動がされていなかった。最近環境問題が非常に大きな問題になってきて、新たに 1990 年から再度地球環境について考えようということで関心もたれるようになったわけです。

早川： この 1970 年の時にちょうどお仕事でたまたまアメリカにいらして、この Earth day というのを体験なさったわけですね。

石黒： そうです。たまたま私はその時アメリカのニューヨークの設計事務所に勤務していたために、日本人が一人だけの事務所だったため自由行動ができたということもあって当日 1970 年 4 月 22 日ニューヨークの五番街で行われたこれに参加することができました。

早川： はい、今写真をちょっと見せていただいたんですけど、ニューヨークの五番街の中でなんともこう人が楽しそうに、自然に歩いているという風景が目につくんですけど、これが環境と結びつくんですか？

石黒： 要は、環境というのは基本的には個人個人の自分自身の生活を自分のスタイルですると、その結果的に環境に対して負荷を持たないということなんで、実は写真を見ていただいた中で、私あの写真が好きなんですけど、当時トンボめがねと呼ばれる非常に大きなめがねをかけていた人達、あるいはベトナム戦争に対して反対しているヒッピーの人達、そういうものが非常に混在しているんですけど、調和したか感じで五番街を散策しているというのが私にとって非常に楽しみでもあり喜びでもあるということです。

早川： そして当日、時間をきめて車が全部止まって歩行者天国のようなかんじですか？